

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>Title</b>     | ラインホールド・ニーバーの思想の今日性(ラインホールド・ニーバー研究 : 佐久間重氏報告)   |
| <b>Author(s)</b> | 鈴木, 幸   |
| <b>Citation</b>  | 聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.3, 2013.3 : 19-19  |
| <b>URL</b>       | <a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4477">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4477</a> |
| <b>Rights</b>    |   |



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## ラインホールド・ニーバー研究 佐久間 重氏報告 ラインホールド・ニーバーの思想の今日性

2013年2月8日（金）聖学院本部新館2階会議室において、2012年度第5回目「ラインホールド・ニーバー」研究会が開催された。この研究会は日本学術振興会科学研究費補助金の基盤研究(B)「ラインホールド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」(課題番号：23320025、研究代表：高橋義文)の助成で開催され、総合研究所のラインホールド・ニーバー研究会との共催で行われた。名古屋文理大学教授、佐久間重氏より「ラインホールド・ニーバーの思想の今日性」と題して、ご発表いただいた。参加者は16名であった。概要は以下の通りである。

ニーバーの生涯と思想形成にはアメリカ社会が深く関わっていると考えられることから、全体的なアメリカ史との関連から、そして現在のニーバー思想解釈から、ニーバーを考察する試みが行われた。

第二次大戦や冷戦時に活躍したニーバーであるが、1971年の死後その思想が復活し始めたのはオバマ大統領との関連である。マッコークル(Mac McCorkle)は、ニーバーの遺産を正しく評価することがアメリカの知的論説を豊かにすると、この復活を称えている。そのマッコークルが最近のニーバー思想を論じる人物として、チャペル(David

Chappell)とバイナート(Peter Beinart)の2人を挙げる。チャペルはニーバーを預言者(prophet)と、そしてバイナートは政治家(statesman)と位置づけた。しかしマッコークルによれば、両者とも一時期に限ったニーバー思想を完全なものとして捉えようとしている点を批判する。キング牧師や、リベラリズム、ベトナム戦争と関連づけたとして、マッコークルによれば、政治思想家と預言者をあわせ持つ両義性こそがニーバーの遺産として、現在そして今後の復興や修正に値するものとして考えられると指摘する。

また、ニーバーにとって「正義」とは、社会的調和をもたらすものとして位置づけられ、同胞愛そして家族愛という、愛の領域からは外すことのできないものと見なされた。しかし現実社会では、様々な権力が均衡することから、争いを和らげ、組織の中核となる存在が求められる。ニーバーは民主主義を擁護し、また政治の指導者は神の審判を受けるとする聖書的な考え方をもち、政治の目的を正義の確立とみなした。

ニーバー思想を解く鍵は、その弁証法的な論述に見られる。そして、社会的にも経済的にも問題を抱えている現在アメリカ社会にとって、ニーバーのような複合的思想は必要であることが言及された。

質疑応答では、ニーバーが生きた時代との比較について、ニーバーがどのようにイスラエルをとらえるか、カトリックの中でのニーバーの捉え方、国民介護保険について、社会の非道徳性、ニーバーを「神学者」としてとらえること等が議論され、ニーバー思想とその今日性を深く考えさせられた有意義な時間であった。

(すずき・みゆき 聖学院大学総合研究所特任研究員)



名古屋文理大学教授 佐久間重先生